米軍も認める特殊塗料

LINE-X Performance Check

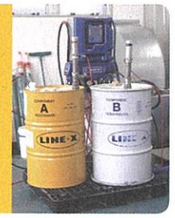
米軍も認める特殊塗料のLINE-X。衝撃や耐爆発性、強度と柔軟性を併せ持つこの特殊塗料の"強さ"と"カスタム性"はどんなもんか？様々な実験によってチェックしてみよう。

Text&Photo/ Hiroyuki KONDOH
Call/ LINE-X Auto Japan 042-486-8887 www.linex-auto.co.jp
取材協力/ フレックス・ドリーム LINE-X事業部 埼玉 048-793-0077 www.flexdream.jp/LINE-X/saitama/

タンドラの重さは3トン以上、それをLINE-Xを厚めに塗装した紙カップ4つで支えている。紙カップ1個にかかっている重量はなんと、800kg以上だ！

今回実験のために用意したのは、ブロック、生卵、紙コップ、ポップコーンの紙カップ。これにLINE-Xを塗布（今回は極端な実験を行うため、厚めに塗装してある）。結果や如何に。

What's LINE-X



ポリイソシアネートとポリアミンを反応させたポリウレア樹脂。そのポリウレア樹脂を独自の技術で高純度化しているのがLINE-X。適度な強度と柔軟性、そして強力な吸着性を持つため、耐衝撃・耐爆破・防錆・防音・耐摩耗に優れ、自動車メーカーも純正オプションとして、スプレーオン・ベッドライナーなどで使用している。その強さと共に、塗膜の経年劣化も極めて遅く、20年以上の耐久性が実証されている。

ＬＩＮＥ-Ｘとは、米政府機関及び重要施設の防護用に構造物強化用のポリマー材として採用される、米軍・政府が唯一認めている塗料。適度な強度と柔軟性を持ち耐衝撃・爆破性と共に、耐摩耗性・傷防止・防錆・防食などなど、高い性能を誇っている。

この性能を放っておく手はないと、自動車業界でもＵＳ&ＵＫトヨタやランドローバーがメーカー純正オプションの荷台保護用のスプレーオン・ベッドライナーとして採用。ここ日本では、フレックス・ドリームが窓口となり「ＬＩＮＥ-Ｘ Ａｕｔｏ Ｊａｐａｎ」として、トラックなどの荷台の保護はもちろん、カスタムアイテムとして展開している。

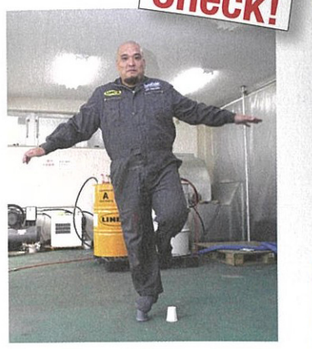
今回はいろんな角度からその性能をチェックしてみることにした。事前に塗装を行い実験用に用意されたのは、コンクリートブロック、紙コップ、生卵など。その結果は写真をご覧になっていただければわかると思うが、卵に関しては実験後に、さらに金属パイプでトスバッティングしても割れなかったことをご報告しておこう。

ちなみにこういった耐衝撃・耐久性に加え、ＬＩＮＥ-Ｘは復元力と吸着性が強いため、ぶつかった場合なども、ボディの鋼板ごと元に戻ることもある（状況にもよる）のだという。

ブロックで Check!

2階からコンクリートブロックを落として、衝撃度をチェック。未塗装のブロックは粉々に砕け散ったが、LINE-Xを塗装したブロックは、割れることもなかった

重さで Check!



体重120キロのヘヴィなスタッフが、LINE-Xを塗装した紙コップにのってもほら、この通り。当然、未塗装の紙コップは一瞬でクシャっと潰れてしまった。

生卵で Check!

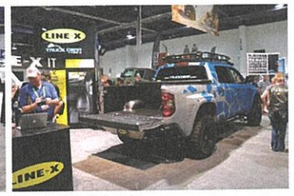
生卵とLINE-Xをコーディングした生卵を鉄パイプでスイング!当然、生卵は粉々につぶれたものの、LINE-Xを塗布したものは、衝撃を吸収後バウンド、そのままの姿を留めている。撮影のため数回実験を続けたが、LINE-Xを塗布したものは潰れることはなかった。

カスタムポイントを Check!

今回取材したタンドラは、ベッドライナー、オーバーフェンダー、カンガルーバーをLINE-Xで塗装。これだけでも全体の雰囲気が締まった感じになった。また、上のランクル200（プロアングラー橋本卓哉さん仕様）の場合は、さらにバンパー・ボンネット部分にもLINE-Xが施されている。今回はブラックのLINE-Xを使用したが、色んなカラーも用意されている。

独特な質感は、カスタムにも最適 !!

SEMA SHOW には、様々なカラーのLINE-Xでボディ全体をペイントしたカスタムカーが多数出展。USトヨタ・UKトヨタ・ランドローバーではメーカーオプションに採用されている。



施工料金＜例＞TUNDRAの場合
- フロントバンパー　60,000円～
- リアバンパー　60,000円～
- フロントグリル　40,000円～
- プッシュワーカーオーバーフェンダー　100,000円～
- サイドステップ 左右セット　60,000円～
- ドアミラー 左右セット（片面塗装）　20,000円～
- ドアノブ 2個セット　10,000円～
- グリルガード　100,000円～
- タンドラピックアップトラック荷台　180,000円～

※脱着工賃別途。※その他の車種・パーツ・カラーは問い合わせを!

お次はトヨタ・タンドラをモデルに、カスタムの可能性を探ってみよう。その強さを武器に、荷物で傷付きやすいピックアップのベッドや、跳ね石などで傷みやすいオフローダーの下廻りの保護ペイントとして活用されているＬＩＮＥ-Ｘだが、その独特な風合いの塗装面にカスタムフリークからも注目が集まっている。

艶があろうが無かろうが、クルマのボディに使われているペイントといえば、手触りがツルッとしているのが常識だった。しかし、それとは明らかに一線を画すのがこの特殊塗料。その手触りはまるで番手の荒いヤスリのよう。凸凹がある塗装面は、新しいモノに目がない、カスタム好きの心を掴んだのである。熟練のスタッフの手に掛かれば、塗装面のざらつき感に強弱をつけることもでき、また、カラーバリエーションも豊富だから、好みに近い色味にペイントすることも可能なのだ。

ちなみに塗装面の厚さは、クルマの場合1㎜前後が一般的。塗装後の重量増は、1㎜×1㎡＝1㎏目安となっているという。

思い切って、オールペンしてみるのもいいし、ノーズブラ風のカスタムペイントを施しても面白そう。気になったそこのアナタ！ＬＩＮＥ-Ｘを使って、今までにはないカスタムペイントにチャレンジしてみてはいかがだろうか？